

製品名: PTP22 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16667

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	91kDa

抗原情報

遺伝子名	PTPN22
別名	PTPN22; PTPN8; Tyrosine-protein phosphatase non-receptor type 22; Hematopoietic cell protein-tyrosine phosphatase 70Z-PEP; Lymphoid phosphatase; LyP; PEST-domain phosphatase; PEP
遺伝子 ID	26191.0
SwissProt ID	Q9Y2R2
免疫原	ヒト PTP22 の N 末端領域から得られた合成ペプチド。

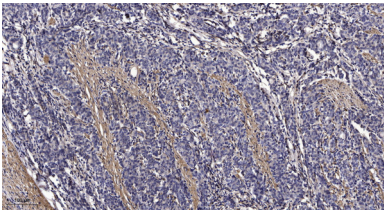
背景

この遺伝子は、タンパク質チロシンホスファターゼファミリーの非受容体クラス 4 サブファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、分子アダプタータンパク質 CBL と会合するリンパ球特異的細胞内ホスファターゼであり、T 細胞受容体シグナル伝達経路における CBL 機能の調節に関与している可能性があります。この遺伝子の変異は、1 型糖尿病、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、バセドウ病など、様々な自己免疫疾患に関連する可能性があります。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2009 年 3 月],触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。機能: Cbl に作用すると思われます。Cbl および関連するタンパク質キナーゼの機能を制御する役割を果たす可能性がある。類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属する。非受容体クラス 4 サブファミリー。類似性: 1 つのチロシンタンパク質ホスファターゼドメインを含む。組織特異性: 主にリンパ組織および細胞に発現する。アイソフォーム 1 は胸腺細胞、成熟 B 細胞、成熟 T 細胞の両方に発現する。、

研究分野

MAPK

画像データ



パラフィン包埋ヒト胃腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45 分)。